

幼稚園入園をめぐる幼児と養育者の相互交渉過程

旭川大女短大幼教 太田 光洋

目的 幼児にとって継続的、組織的な社会的場面への参加を意味する幼稚園入園に際して、養育者がどのように幼児の社会参加を支えているのかを明らかにするため、養育者と幼児の相互交渉過程に焦点を当てて検討した。

方法 以下に示す3つの調査等を実施し、それらの結果についての総合的考察を行った。

- (1) 1993年4月に幼稚園に入園した幼児を持つ養育者を対象として、幼稚園についてのインストラクション等に関する質問紙調査
- (2) 個々の子どもの特性との関わりを検討するため、(1)の調査対象の一部を対象として幼児の気質に関する質問紙調査
- (3) 1993年4月に幼稚園に入園した幼児を持つ母親4名に幼稚園入園前後の当該幼児との幼稚園に関わりのある会話、幼児および養育者の行動、養育者自身の不安などについて記録をとってもらい、その相互交渉の文脈における幼児の行動とそれを支える養育者の働きかけについて検討した。

結果 幼稚園入園前にほとんどの養育者は幼児に対して何らかのインストラクションを行っており、それらは個々の子どもの性格（気質）的側面に即応して行われている。したがって、養育者のガイダンスはそれぞれの幼児に適した方法で、子どもに自信を持たせ、子どもを自立させるように調整され、方向づけられている。